

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

日本語後記（あとがき）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河合, 洋尚 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009557

日語後記（あとがき）

本書は、2018年12月15～16日にかけて国立民族学博物館で開催した国際シンポジウム「客家エスニシティとグローバル現象」の成果出版物である。このシンポジウムでは、日本、台湾、香港、中国大陆、イギリス、カナダなどから集まった25名の発表者により、環インド洋、環太平洋、アメリカ大陸の客家についての基礎データの提示と議論をおこなった。また、本シンポジウムは一般公開しており、発表者も含めると2日で延べ約100名の方々に参集いただいた。本書は、このシンポジウムで催された「客家エスニシティの再構築—歴史人類学の視点から」と題するパネルを除いた、16の講演・発表が収録されている。本書の編集にあたっては河合と張維安が全体の構想について相談し、河合が原稿のとりまとめと整理をおこなった後、張維安が内容や中国語表現を含む全体的な確認をおこなった。

こうして本書を皆様にお届けできることになったのは、国際シンポジウムの開催に尽力していただいた関係者の皆様のおかげである。とりわけ開幕の挨拶を務めていただいた吉田憲司館長、司会・コメンテーターを務めてくださった園田節子（兵庫県立大学）、横田祥子（滋賀県立大学）、羅烈師（台湾交通大学）、蔡静芬（サラワク大学）、飯島典子（広島市立大学）、小林宏至（山口大学）の各先生、本シンポジウムのプレ講演会を含めてご支援をいただいた関雄二副館長、陳来幸（兵庫県立大学）先生、日本客家団体の周子秋（日本関東崇正總會）会長、陳荊芳（全日本崇正連合總會）会長、城年徳（日本関西崇正總會）会長、劉宏城（全日本崇正連合總會）幹事長、同時通訳担当の黃怡筠さん、朱麗真さん、および会議の開催を補助してくださった横田浩一（国立民族学博物館外来研究員）さん、范智盈（大阪大学大学院）さん、生田節子さん、吉村美恵子さんに深くお礼を申し上げたい。本シンポジウムの運営から当日の開催にあたっては、台湾客家文化センターおよび台湾交通大学客家文化学院のスタッフにも大変お世話になった。また、本館の特別研究「マイノリティと共生」およびグローバル現象研究部にもご支援いただいた。

客家をめぐる研究は、日本でも100年以上の歴史がある。しかし、日本では2014年に日本国際客家文化協会が明治大学で開催した会合など若干の例外を除くと、客家をめぐる国際シンポジウムが開催されたことがあまりない。本シンポジウムは、人類学・民族学・社会学を中心とする国内外の研究者が日本に集まり、1つのテーマをめぐる2日間にわたる議論を展開したという点では、前例のないものである。また、これまで中心な研究対象であった台湾、香港、中国本土、東南アジア諸国の事例を外し、それ以外の国／地域の議論を深めたという点では、おそらく世界で初めての会合である。ただし、それだけに各論文で扱っているデータや議論のなかには萌芽的なものも少なくない。だ

が、我々はそれを差し引いても、2020年という時点で本書が提示したデータには稀少性・重要性があると考えているし、また研究対象を拡げることで「客家」という概念やカテゴリーを疑うという基本的な姿勢を少しでもみせることができたと考えている。本書のデータもしくは議論が、今後の客家研究、華僑華人研究、さらには客家や華僑華人という枠組みを超えた研究に寄与することができれば幸いである。

河合洋尚